

I 学校の概要

アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業

坂出市立加茂小学校

◆児童生徒数及び教員数

○児童生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援	全校
2学級 41名	2学級 38名	2学級 41名	1学級 28名	1学級 32名	1学級 29名	2学級 6名	11学級 215名

○教員数 20名

◆学校の特色

本校区は坂出市の東南部に位置し、交通の便のよさから10年程前より住宅地が急激に増えてきている。地域の人々や保護者は本校の教育活動に対して協力的で、健全育成のための様々な取り組みを実施し、子ども会活動や地域の体育的活動も盛んである。反面、家庭でよさを十分認めてもらえなかったり、すぐに友達と自分を比べて悲観的になったりする子どもも見られ、十分に自尊感情が育っていないことが課題であった。そのため、平成27、28年度と自尊感情を育む研究を継続実践したことにより、児童は「自分は先生方に受け入れられている」という基本的な自尊感情は芽生えてきた。しかし、自他を比較して互いの良さを認め合う社会的な自尊感情を高めるまでにはいかず、自分自身への評価が甘く、正しいメタ認知ができないという新たな課題が生まれた。

そこで、昨年度は、香川県教育委員会の研究指定「思考力等の育成モデル校事業」を受け、自分のものの見方・考え方で判断することなく、相手の気持ちを類推し、共に学び合い成長していけるような児童の育成を目指し、研究を進めてきた。その中で、授業と本校独自の活動であるふれあい活動を両輪ととらえて、学んだ思考スキルの活用を図りながら望ましい人間関係の構築に迫っていった。

II 研究主題等

研究主題 学びの深まりが実感できる教育活動の創造

-ものの見方・考え方を広げ、深める指導方法の工夫-

◆研究主題設定の理由

平成29年度の県学習状況調査、質問紙調査の結果では、下記の項目に「当てはまる」と自信をもって回答した割合が県平均を上回った。

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか」(+9.1%)

「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」(+20.1%)

しかし、次の項目においては前年度に引き続き、県平均を下回っている。

「授業の内容がどの程度分かりますか」(-6.7%) 「勉強は好きですか」(-3.7%)

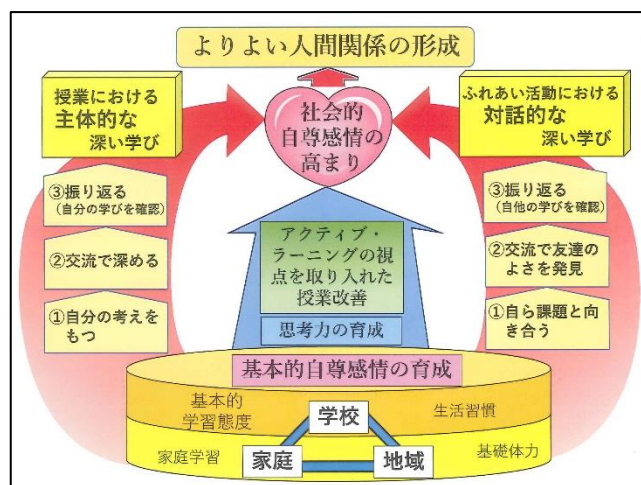
「分からない問題があるとき、見方や考え方を変えながら、あきらめずに取り組んでいる」(-2.9%)

県平均を上回っている項目については、思考力に視点をあてた研究に取り組んだ成果であると考えている。学習や活動の意義や価値を教師だけでなく児童自身が自覚できるように働きかけたり、「ものの見方・考え方」の習得に視点をあてた授業や活動をししたりしたことにより、他者の考えを類推しようとする意識が本校の児童に育ってきている。しかし、そこに留まり、学びの楽しさ、手応えを実感するまでには至っていない。

今年度は、昨年度の取り組みを一步進めて、思考スキルの習得と活用を狙いつつ、自分の考え方・感じ方の視点を広げると同時に、自分の意見と異なる友達を認めることができるようになること、つまりアクティブ・ラーニングの視点に立って友達の考えを知り、自分の学びを深めることができるようにしたい。そうすることが、自他の存在をお互い認め尊敬し合う、本来の正しい自尊感情の育成につながると考える。

◆研究内容

- ① 授業における主体的な深い学びをめざして
 - ・自分の考えをまとめるための支援
 - ・学びの深まりを実感できる交流場面（思考操作場面）の設定
 - ・振り返り（リフレクション）の時間の確保
- ② ふれあい活動における対話的な深い学びをめざして
 - ・興味・関心を高める課題設定の工夫
 - ・友達のよさを見つける交流場面の設定
 - ・友達のよさや自分のよさを振り返る評価の在り方



◆研究の主張点

① 見通し→探究→振り返りの一連のプロセスを大切にし、どこに力を入れた授業かを明確にする

② 昨年度の思考ツールを活用した授業を今年度も実践して検証を試みる

③ ふれあい活動（朝活動・縦割り活動）では振り返りの充実と活用、改善を試みる

◆研究方法

- ・ 参考となる先進校の実践や文献研修を行う。
- ・ 授業を通して主体的で深い学びを目指す授業研究部会と、実体験の場で対話的で深い学びを目指すふれあい活動研究部会を設けて研究を進める。部会の研修では、昨年度見出した思考スキル及び思考ツールの見直しを図り、より効果的な手立てを考えたり、系統性を研究したりする。
- ・ 授業研究の視点として「学びの深まりを実感できること」を最重要項目として位置づけ、授業後研究討議において「自分の考えをまとめる」「交流」「振り返り」の3点がより効果的に働いていたかを考えていきたい。また、効果的な交流の在り方を追求し、外部講師を招き、指導・助言を受けて研修を進めていく。
- ・ アクティブ・ラーニングの研究成果の参考とする「15の指標」をもとに、5月と11月にアンケートを実施し、結果分析を行う。
- ・ 11月実施の県学習状況調査の結果、県版テスト、年5回の校内漢字・計算テストを通して学力の定着度を計る。

III 研究実践

◆指標設定と達成に向けた取組

1 (教員質問紙) 児童生徒の多様な考えを引き出したり, 思考を深めたりするような発問や助言等をしていますか。

指標 「①できている」の合計



指標の達成に向けた実践

★主張点①に迫るために

見通し→探究→振り返りの一連のプロセスを大切にし, どこに力を入れた授業かを明確にし, 必要な力を分析する。

●見通しを大切にした授業例 3年 国語 「心にのこったことを」

本時の流れ

導入 スピーチキングになるための, キングポイントを見つけよう。

活動① 例文Aから大事だと思う文章だけを残す。 **選択**

活動② 例文Aと例文Bを比べて, 例文Bの良さを見つける。 **比べる**

まとめ振り返り 文章を書くときのキングポイントは,
①伝えたいことの内容を決めること
②それがよく伝わるように, 観点を使って書くこと

導入 スピーチキングになるための, キングポイントを見つけよう。

スピーチキング大会で, スピーチキングになろう!

スピーチキングになりたいな。

どうやったら, スピーチキングになれるかな。

導入 スピーチキングになるための, キングポイントを見つけよう。

例文A 既習の作文ポイントを押さえている
一日の出来事を羅列した文章

導入 スピーチキングになるための, キングポイントを見つけよう。

この文章の中に, いいところあるかな?

スピーチキングになるために, もっと分かりやすい文章にするにはどうすれば良いかな?

「始め」「中」「終わり」に分けて書いてあります。

揺さぶり発問

順序を表す言葉を使っています。

既知とのずれ

えー, 分からん。でも何か工夫できるころはありそう...

課題を焦点化

見通しでのポイント 子どもたちにとって主体的な学習となるために

ゴールイメージをもたせる

揺さぶり発問で既知とのずれを明らかにし, 課題を焦点化する

●**探究**を大切にした授業例 5年 算数 「面積」

本時の流れ

導入 平行四辺形の面積の公式を知り、どうしてそうなるのか考えるという学習の見直しをもつ。

活動① 平行四辺形の面積の求め方についてアイデアを出す。 **比較**
①自分で ②全体で **分類**

活動② アイデアをもとに公式の理由を説明する。
①班で ②全体で

まとめ振り返り どの考え方が一番納得できるかを選択し、振り返る。 **選択**

効果的な操作活動の導入

スモールステップで考えを作っているワークシートの工夫

探究でのポイント 子どもたちにとって **必要性のある話し合いになるために**

ゴールに向かって道筋立てて説明する力

クリアファイルでできた個人まなボードを活用し何度も書いたり消したりする。

自分の考えを整理する

2つの三角形 三角形と四角形 2つの台形

比較・分類する

他者に分かりやすく説明する

図と文章をつなげる

●**振り返り**を大切にした授業例 1年 国語 「わたしのはっけん」

本時の流れ

導入 お気に入りの葉っぱの様子がよく分かるように書こう。

活動① よく分かる説明だと思える一文をカードに書いて掲示し、話し合う。

活動② ペアで色と形のカードを仲間分けし **比べる** 小観点を見つけ、シールを貼る。 **なかま分け**

活動③ 自分の紹介に取り入れたい観点を決め、カードに書き加える。 **なかま分け** **観点**

振り返り 観点シールを貼り、学びを振り返る。 **観点**

活動②で、見つけた小観点のシールを貼る活動を行っている。

活動③ 自分の紹介に取り入れたい観点を決め、カードに書き加える。

観点シール 中のようす 大きさ 小観点 いろいろ かたち

振り返り 観点シールを貼り、学びを振り返る。

大きさや中の様子のシールが貼れたよ。

大きさ ~と比べて

筆箱より1センチ長かったです。あなたは、7個でした。

中のようす

振り返りでのポイント

自分の学びを確認するための振り返りとなるために

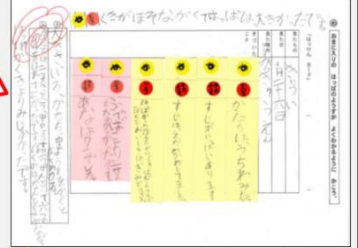
教師が、振り返りに、何を、どう書かせるかを明確にもつ。

子ども自身が、自分ができていること、できていないことを自己評価し、学びをもとに付けたす場として位置付ける。

振り返り 観点シールを貼り学びを振り返る。

学びの実感

形が2つ。大きさ1つ。中の様子が2つ書けたよ。僕の葉っぱは、なんと茎よりも短かった。



新たな気づき

14 (教員質問紙) 授業の内容に合った思考ツールを用いて、思考力を高める指導ができていますか。

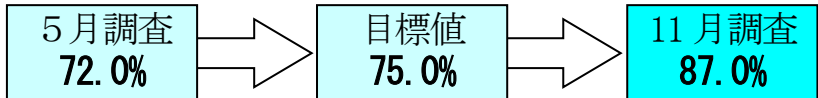
指標 「①できている+②どちらかというできている」の合計

指標の達成に向けた実践

★主張点②に迫るために

昨年度の思考ツールを活用した授業を今年度も実践して、検証を試みる。

●改善を試みた授業例1 2年 算数 「かくれた数はいくつ」



昨年度

どちらも「はじめの数」を求めるよ。 今日求める数が部分ではなくて全体になっているよ。

前時のテープ図 本時のテープ図

既習と比べて考える

しかし、子どもにとって、「なぜ比べるのか」必要感がもてなかった。

今年度

立てた見通しをワークシートに位置づけた。

テープ図からしきをもみかえて... $18+13=31$

学びの過程を価値付けるために、板書も改善した。

おぼしところ ちがうところ

既習と比べて考える + 見通しに立ち返る

主体的に比べようとする態度が見られた

ワークシートの工夫

言葉と図と式をつなぐため一枚物のワークシートに!

言葉での説明が分からなくなったら、すぐ図に戻って考える子どもの姿が見られた。

●改善を試みた授業例2 3年 算数 「何倍でしょう」

昨年度

言葉と図をつなぐことをわらって

しかし、図に戻る意識が薄い。テープ図から関係図までの思考を大切に。

今年度

真ん中(青)を抜いたテープ図

関係図

常にテープ図に戻って考えようとする姿が見られた

方眼を手がかりに

真ん中(青)を抜いたテープ図

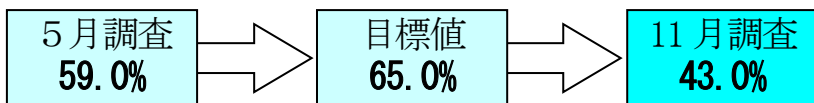
テープ図を縦に並べる工夫

関係図へスムーズにながった

11 (児童質問紙) 友だちのいいところを見つけることができますか。

指標 「①できている」の合計

指標の達成に向けた実践



★主張点③に迫るために

ふれあい活動(かもっ子名句・縦割り活動)では振り返りの充実と活用に力点を置き、対話的な深い学びへと導く。

●振り返りを大切にしたかもっ子名句…対話的な学びを通して、新たな観点を獲得している。

かもっ子名句

第1 木曜	コア・マトリックスを使って、テーマに関するイメージを膨らませる
第2 木曜	名句に使いたい言葉を選び、句を作る
第3 木曜	各クラスで各自の作品を発表
第4 木曜	全校集会で、各クラスの代表の作品の発表

振り返り時間

ポイント1 1年生の句を聞いて

ポイント2

全校児童のかもっ子名句の掲示

代表者の名句を玄関に掲示する

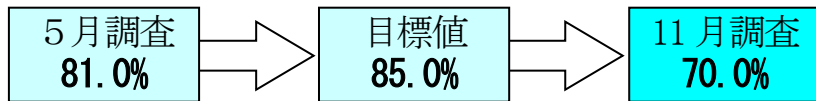
代表者の名句

掲出者の名句

ほくも紅葉狩りのことを句にしたけど、目の観点しか使ったけど、目の観点しこの句みだいに聞こえた語を使って句を作ることもできるんだな。

12 (児童質問紙) ふれあい活動では、上級生の言ったことを素直に聞いて活動できていますか。

指標 「①できている」の合計



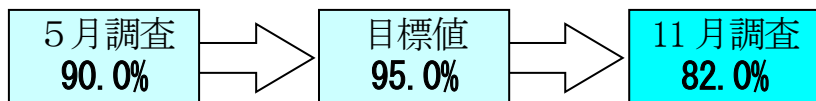
指標の達成に向けた実践

★主張点③に迫るために

ふれあい活動(かもっ子名句・縦割り活動)では振り返りの充実と活用に力点を置き、対話的な深い学びへと導く。

13 (児童質問紙) ふれあい活動では、下級生の気持ちを考えて活動できていますか。

指標 「①できている」の合計



指標の達成に向けた実践

★主張点③に迫るために

ふれあい活動(かもっ子名句・縦割り活動)では振り返りの充実と活用に力点を置き、対話的な深い学びへと導く。

●振り返りを大切にした縦割り活動

子どもたちにとって振り返りが有意義なものとなるよう教師の支援をまず、揃える

共通の子ども像をもち指導内容をそろえるために
評価の観点を明示

よりよい人間関係の形成

高	責任感 ・班集体に伝わるような大きな声で伝える。 ・自分の仕事や役割を最後までやりきる。 ・下級生に合わせたサポートや声かけ、見守りをする。
中	協調性 ・1, 2年生に対して優しくしたり、お手伝いをしたりする。 ・上級生に分らないことを聞いたり、自分の気持ちなどを積極的に伝えたりする。 ・自分にできることを考え、進んで上級生の手伝いをしようとする。
低	積極性 ・上級生の話を一生懸命聞く。 ・決められたルールを守って、友達と一緒に楽しむ。 ・ゲームを考えてくれた上級生に対して感謝の気持ちをもつ。

・楽しく ・安全に ・けんかなし

体験活動の振り返りとそれを評価した教師のコメント

この児童は上級生の思いを感じ取り、楽しくいっしょに活動する目的「仲良くなること」まで感じている。教師はさらに自分ができることまで考えが及ぶことを期待する。

4年 N次

6年生のお話をよく聞いて、楽しく研べました。「だるまさんがねた」や「だるまさんがしゃんけんした」をおいにか言っ。みんなわら。たりしてみんなとなかよくなれたよ。上級生が考えた「だるまさん」の一日は、6年生が考えてくれたゲームなので、おもしろかったです。これからみんな1, 2, 3, 5, 6年生に伝えていこうと思います。

教師は児童に対するコメントとして、協調性を発揮して活動していることを評価しさらにいい活動になるために4年生としてできることを考えるよう示唆を与えている。

次年度につなげる振り返りカード

かもっ子 いきいきタイム 振り返り表
活動を振り返って、第6年生にバトンタッチしよう!

各活動の振り返りを積み重ねていることが、PDCAサイクルを生かした実践につながっている。

年度を超えてつなげるように

12月の縦割り活動で6年生は引退し活動の主体は5年生に引き継がれる。これまでに行った活動一つ一つを振り返り、自分たちの班の評価とその理由、改善策を記録した。

前日	活動名	評価 がんばったこと・改善したいこと
6/5	新聞いんげん	◎お飾りかみ 全員が参加できし、バツで工夫して新聞に貼って、みんなが楽しそうにしていた。
7/2	ドロリイ	△工夫が少なかった。ルールやアビを工夫するよう促すけれど、手をつないでいない人が多かった。

準備は大変だったけど、喜んでくれると、その分、やりがいがあることがわかった。

学校文化の継承

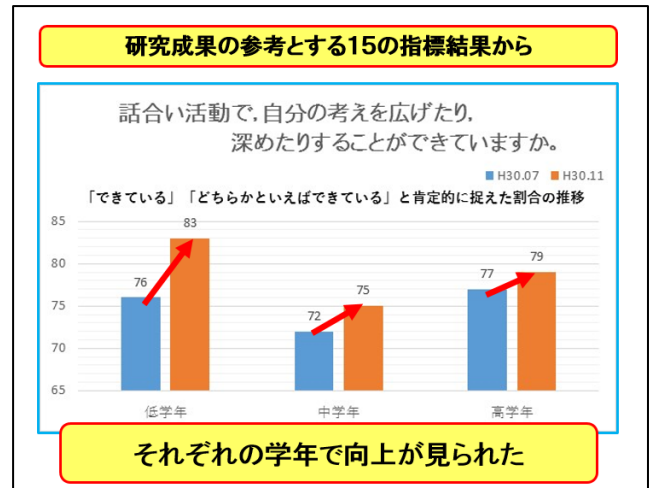
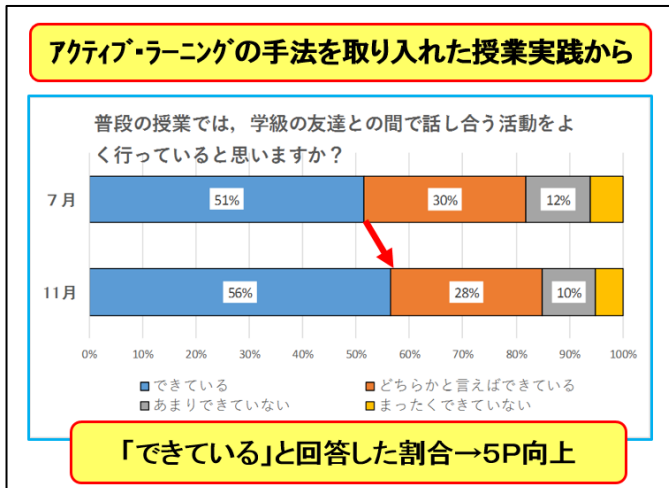
(並ばせようと思っても言った通りにしてくれない) 6年生は、いつも班のみんなをすぐに並ばせていてすごい。

1年生でもわかるように上手に説明する6年生はすごいなあ。

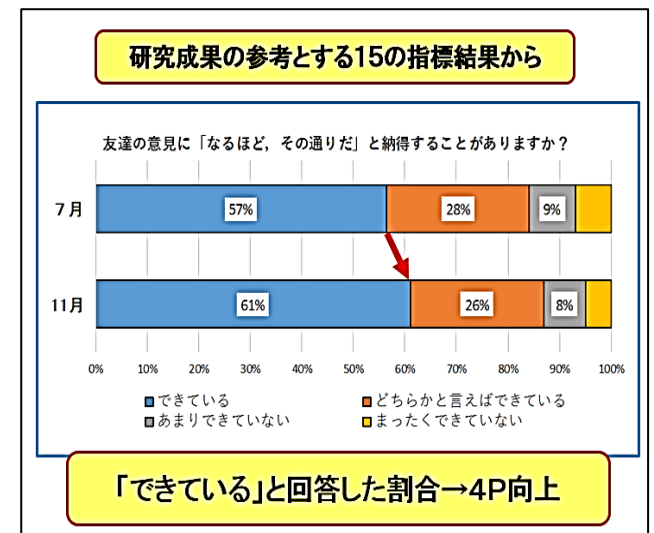
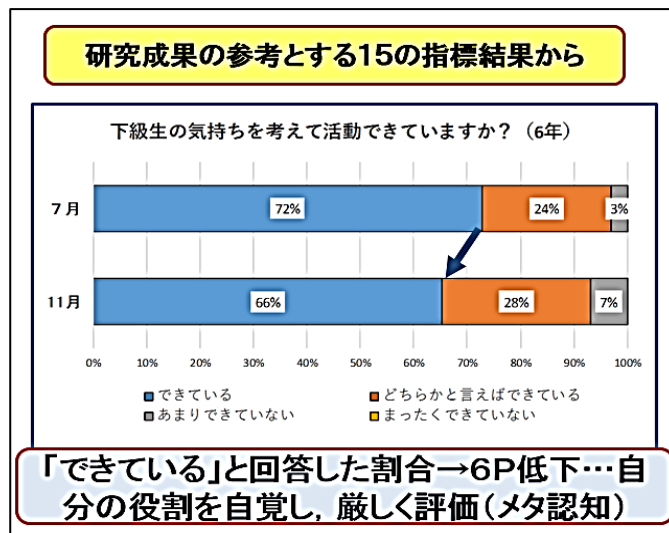
IV 研究の成果と課題

【成果】

- 授業の中で話し合う場面を子どもたちに保障したことにより、交流活動の充実が図れ、相手の気持ちを考えながら自分の考えを広げたり深めたりして、よりよい考えを導こうとする子どもたちの姿が見られるようになった。



- PDCA サイクルを大切にしながら様々な体験活動を行う中で、授業で学んだ様々な見方・考え方を活用して、客観的な自己評価ができつつある。



- 教師が体験を意義づけたり、価値づけたりする活動を積極的に行ったことで、子ども同士の交流活動が他者への関わりの大切さを学ぶ場であることを子ども自身が自覚できてきた。
- 研究指定を受けて教職員間で学び合うことは、何よりも教師自身の研修となり、教師としての資質や技能を高めることができた。

【課題】

- アンケート項目を細かく分析すると、学年によって偏りが大きい項目もある。児童の実態に応じた指導法であるかを引き続き、検証していきたい。
- 「勉強が好き」「授業の内容が分かる」という数値は依然低く、目標値まで到達できていない。授業で付けたい力を精選し、子どもにとってすっきりと、分かったといえる授業を追究していきたい。
- 縦割り活動や「かもっ子名句」などのふれあい活動は、学校行事に合わせた無理のない計画や準備、振り返りの観点の見直しなど、活動内容について再度検討する必要がある。